



① ヤンマー農村家庭工業

奥琵琶湖にたたずむ菅浦という地域で「ヤンマー農村家庭工業」という企業に出会いました。菅浦は、中世の自治都市として著名。その名残といわれる門(四足門と呼ばれています)が集落の入り口に残っています。昭和45年までは道路が通じておらず、交通手段は船だけ。鎌倉時代以降ずっと100戸くらいの世帯が暮らし続けた地区です。山裾に家屋が並ぶ光景は、奥琵琶湖がもつ落ち着いた魅力を感じさせます。



集落を歩くと、各家庭の庭先に「第○作業所」という小屋が目立ちます。厠の建物と同じくらいの小さな小屋です。そこに小型の加工機が2台くらい。1人でしか作業できないと思います。そんな作業所が第20作業所まで確認できました。機械が動いている小屋もあれば、誰もいない小屋もあります。他の集落ではあまり見たことがありません。

集落のはずれには、「ヤンマー農村家庭工業」という100坪ほどの工場がありました。新しい建屋ではありませんが、樹木がよく手入れされ、こざっぱりした印象を受けます。

気になるので、お昼休みに訪ねてみました。

出会ったのが75歳くらいのお婆ちゃん。その説明を要約すると、

- ①ヤンマーの創業者の山岡孫吉(湖北の出身)が地域に仕事を作ることを考えて戦後に創設。
- ②家庭工業と作業所が一带になってヤンマー製品の部品加工を行う。
- ③こうして仕事があつて働けることが有難い。といった内容でした。10分くらいの立ち話でしたが、「ヤンマーさん」というお婆ちゃんの言葉遣いに、感謝の気持ちが込められていることをじんわりと感ずることができました。

東日本大震災からの復興に向けて、これからさまざまな取組みが始まると思います。なかでも仕事の確保は、生活再建の要。そんなとき、少額の資金で仕事を始めることができ、販売先が確保される農村家庭工業の考え方は、企業が震災復興に知恵を出すことの大事さと可能性を感じさせてくれました。

(MBO実践支援センター代表)



貸金事情 No.2612

(2011.7.20発行)